

高等学校・地域における日本語指導・支援に関するヒアリング

白鵬女子高等学校

報告者 島 英治（日本語主任教諭）

1 学校概要

学校名 白鵬女子高等学校

課程：全日制

学科：普通科9コース制

住所 神奈川県横浜市鶴見区北寺尾4-10-13

代表連絡先：045-581-6721

ウェブサイト：<http://www.hahukojoshi-h.ed.jp>

2 指導・支援対象の生徒について

(1) 人数 1年 19名 2年 22名 3年 5名

(2) 言語文化背景 中国 フィリピン ネパール ブラジル ミャンマー
アメリカ フランス ケニア ナイジェリア など

(3) 滞在期間 0～6年程度

(4) 来日理由

*保護者の就労等の都合により来日（在留資格：永住・定住・家族）

*日本国籍であるが海外に2年以上在住し帰国6年以内の生徒

*日本の美術、メディア系の大学進学希望者及びスポーツ（バスケットボール・陸上）留学日本の大学就職を希望（在留資格：留学）

3 指導・支援体制

本校は外国につながる生徒の受入れを平成24年度から行っており近年は在日期间が6年以内の生徒が20人以上入学している。その中で在日期间が1年未満の生徒及びプレイスマントテスト等を実施して日本語指導の支援を実施するか判断して日本語指導の有無を決めている。

指導内容

- 取り出しによる日本語授業の実施（1週1、2年生 6時間 3年生4時間）
- 卒業生による放課後日本語支援
- キャリア教育
- 担任、教科担当者との情報共有

指導人数 令和5年度

国際教育部日本語担当 専任教諭2名 非常勤講師 5名

4 本校の外国につながる生徒の支援の取り組み

目 標 自分のことが表現できる力、日常の学校生活を送るために必要な基礎的な日本の力、および在籍クラスの授業に出席できる力の育成し各生徒の進路実現

支援内容

日本語 取り出し授業

1年次 2クラス 6単位

2年次 2クラス 6単位

3年次 1クラス 4単位

カリキュラム （資料1）

①オリジナル教材「ユニット教材」を使用。活動の中で日本語を学び、文脈の中でことばを使う体験をする。

②技能 活動を通して4技能を身に付ける。（語彙・漢字・文法はより強化すべき）

③キャリア 授業初めに学習計画をたて、振り返りをする。各学年のユニットで「自己理解」「将来の夢」扱い、先輩から進学について語りを聞く時間を設定。

1年次 ゼロ初級 文法中心に学ぶ。

ユニット学習 テーマに沿って基礎的な文法力、会話力を身に付ける。

（短作文、発表活動）

2年次 1学期 ユニット学習（社会問題、エッセイコンテスト応募）

2学期後半 JSL 高校生のライティング（作文、表記、書き言葉、接続詞、構成）

3年次 1学期 小論文の基礎（小論文の表現、構成-序本結）

2学期以降 受験対策（志望理由書/小論文/面接）

技能授業 伸ばすべき技能に特化した授業/JLPT 含む（読解、スピーチ、聴解、JLPT）

習熟度別のクラス編成を目指したが、現状学年別で実施

放課後教科学習支援

滞日期間が短い生徒について本校卒業生が土曜日の放課後日本語の支援を実施

キャリア教育

本校卒業生による報告会を実施

外部団体の主催による外国につながる生徒の進学説明会への参加

【NPO法人多文化共生教育ネット（Me-net）の協力】

各大学のオープンキャンパス、説明会などに積極的に参加している。

担任・教科担当との連携

下記の資料を使い生徒の情報を担任、教科担当者と共有している。

日本語能力共有シート 教科担当、担任と生徒に1学期末、学年末に配布。

日本語能力の成長と課題、指導の際の留意点を共有。

日本語学習記録 生徒に毎学期末に配布。

授業パフォーマンスの評価と課題、日本語能力の見立てを記載

成果

- ・日本語支援拠点施設、各中学校の国際教室との連携を深めることにより神奈川県内の学校に本校の取り組みが認知されてきている。
- ・生徒の進路については毎年ほぼ100%達成している。（資料2）

●課題

- ・毎年入学者が増加傾向とともに滞日期間の短い生徒も増加しており、語彙・漢字・文法など基礎知識を重点的に扱う授業時間数が足りないためカリキュラムの再検討が必要。
- ・大学・NPO法人等との更なる連携
- ・教科指導においてリライト教材等を利用した授業の展開
- ・日本語教師の確保